

平成27年度 国立吉備青少年自然の家教育事業
生活・自立支援キャンプ ～ウーリー自然キャンプ～

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

経済的に困窮した家庭の子供を対象に、「生活・自立」を支援する取組を行うことにより、子供たちの基本的な生活習慣の確立を目指す。

2. 事業の概要

(1) 期日

平成27年12月25日（金）～28日（月） 3泊4日

(2) 参加者

① 募集対象・人数

児童養護施設 みのり園

② 参加人数

小学生第1学年から中学生までの児童22人と施設職員5人

(3) 講師等

12月25日～28日 国立吉備青少年自然の家 企画指導専門職

12月26日 遊木 皆 藤原 基勝 氏

国立吉備青少年自然の家 研修指導員 前田 文男 氏

12月27日 大山乗馬センター 職員

(4) 企画・運営のポイント

- ① 児童養護施設では、普段子供たちが協力をして何かをするといった場面が少ないため、子供たちが協力する場面を多く作りたいという施設職員の強い希望があった。そこで、みんなの協力が必要なプログラムを職員の方々と練り上げていった。クラフトでは、あえて1本の竹から班の人数分のコップや箸を作ったり、3回の調理体験をしたりするなど、縦割り班を意識したプログラムも取り入れた。
- ② 吉備を中心とした3泊4日の生活では、早寝・早起きなど、いつも通りの基本的な生活習慣を行うことや、毎日学習することも取り入れることで、より一層の定着を図った。
- ③ ツリーイングやスキー体験（雪不足のため変更）など、貴重な体験をプログラムに取り入れることにより、豊かな体験活動の展開を企画した。

3. 活動の内容等

(1) 日程

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
12/25 (金)				始 ま り の 会	アイ ス ブ レ イ ク 竹 ば し ・ コ ッ プ 作 り	昼 食	ス コ ア O L			調 理 体 験 ①			キ ン ボ ー ル	入 浴	学 習 タ イ ム	就 寝
12/26 (土)	起 床 洗 面 清 掃	朝 食			調 理 体 験 ②		ツ リ ー イ ン グ		学 習 タ イ ム	夕 食	天 体 観 察	入 浴		学 習 タ イ ム	就 寝	
12/27 (日)	起 床 洗 面				乗 馬 体 験 ス キ ー 場 探 索 (雪 不 足 の た め ス キ ー 体 験 を 変 更)					夕 食	休 憩	入 浴	学 習 タ イ ム	就 寝		
12/28 (月)	起 床 洗 面 清 掃	朝 食	点 検	奉 仕 活 動		調 理 体 験 ③		終 わ り の 会								

(2) 活動の状況



【竹箸とコップ作り】



【スキー場探索】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：100%

(2) 参加者の声

- ① この3泊4日で学習したことは、協力することと班で行動することです。協力することでおいしくなります。今まで班で行動できなかったのが、これからはがんばります。
- ② 今まででは自分のことだけで「人のために・・・」という思いは、あまりありませんでしたが、自主的に協力する場面が増えました。

(3) 成果

- ① クラフトや調理体験など様々な活動をとおして、今まであまり見られなかった協力する場面が多く見られた。その結果、全体や相手のことを考えて行動したり自分の思いを伝えようとしたりするなど、今までにない心の変化が見られた。閉会式で「みんなと協力することの大切さを学んだ。また来年もここへ来たい。」と心の成長をうかがわせる感想を述べた子供もいた。
- ② 吉備でのプログラムについて子供たちの希望を聞いたところ、「最終日にぜひ奉仕活動をやりたい」という意見が出てきた。前回利用した時のドングリ拾い（利用者のクラフトに非常に役立った）が心に残っているようで、人の役に立つことをしたいと先生達にお願いしてきたそうだ。そこで子供たちに、所内の側溝の落ち葉清掃を依頼し、中学生がリードしながら一生懸命掃除してくれた。人の役に立ちたいという子供たちの心の成長を感じることができた。

(4) 今後の課題

本事業を実施する期間に余裕があれば（時期、日数）、もっと幅広い活動の展開が期待できる。

担当：企画指導専門職 徳永 正樹